

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	CQ10腎機能に基づくカルボプラチン投与量設定は推奨されるか？
対象	CBDCAを投与される成人がん患者
介入	推算式で得られる予測値
対照	GFR実測値

*バイアスリスク、非直接性
 各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
 まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因
 各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
 まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
 各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		有用であるか？																								
個別研究		バイアスリスク*						上昇要因**			非直接性*				リスク人数(アウトカム率)						効果指標(種類)		効果指標(値)		信頼区間	
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他																				
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡調整	その他のバイアス	まとも	量応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとも	対象	介入	対照	アウトカム	まとも	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Ainsworth 2012	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	-1	0		660	660		660	660				
Calvert 1995	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	-1	0		189	189		189	189				
de Lemos 2006	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-2	-1	-1	0		96	96		96	96				
Donahue 2001	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	-1	0		21	21		21	21				
Dooley 2013	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	-1	0		455	455		455	455				
Faluyi 2012	コホート研究	-2	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	-1	0		62	62		62	62				
Nagao 2005	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	0	-1		253	0		253	253				
Quinton 2013	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-2	-2	-1	0		68	68		68	68				
Wright 2001	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	0	-1	0		102	102		102	102				
AndoY1997	コホート研究	-1	-1	0	0	-1	0						0	-1	0	0		35	35		35	35				
AndoM2000	コホート研究	-1	-1	0	0	-1	0						0	0	0	0		55	55		55	55				
Shimokata2010	コホート研究	-1	-1	0	0	-1	0						0	0	0	-1		28	28		28	28				
Shepherd2014	コホート研究	-1	-1	-1	-1	-1	0						-1	-1	0	-1		115	115		115	115				

